

恵の丘修道院

恵の丘修道院で実践しているエコロジカルな取り組みを紹介したいと思います。

1. 排水汚染の軽減

☆油ふき

食事をいただいた後のお皿や調理に使用した後のフライパンの油汚れ。修道院ではできるだけ拭ってから洗うようにしています。油を拭く布も古布を切って利用し、キッチンペーパー等の紙の無駄遣いをしないように気をつけています。

近年、地震等の災害が頻発していますが、緊急時に痛感するのが水のありがたさではないでしょうか。東日本大震災の折に被災地のボランティアベースで油汚れをきれいに拭いて水を大切に用いていた光景を思い出します。日本では「湯水のように使う」という言葉があるほど水に恵まれた地域ですが、当たり前だと感じてきた豊かさをもう一度見つめ直すことの大切さを感じます。

☆洗剤の量の調整

洗濯機、食器洗いの洗剤の量を使いすぎないように気をつけています。特に洗濯機はつい洗剤を多く入れがち。手洗いではなく自動だからこそ目につきにくく汚水のもとになってしまいます。ところで、最近では柔軟剤の種類も豊富になって「長時間香りが続く」と謳う宣伝をよく耳にします。香り成分を閉じ込めた小さなプラスチックカプセルを衣類に付着させ、そのカプセルがはじけることで香りを発するのだそうです。はじけたプラスチックの破片は水に流され、やがて海へ・・・海洋マイクロプラスチックの問題をテーマとした研究発表で知った事実です。身近な製品のメリットデメリットを知って購入することも重要ですね。

2. 節電

☆電化製品の活用の仕方

エアコンや加湿器、空気清浄機など、電化製品のエコモードを使用するように心がけています。また、古い電化製品は電力を多く消費するものもあります。修道院の倉庫に何年も眠っているものは処分し、長く使うべき物と新しく買い換えるべき物をきちんと見分けることが大切。一つの物を長く大切に使いさえいいという概念では最早つくられていない近頃の製品。エコと使い捨て文化の狭間でよりよい物の使用法を模索していかなければならない時代だと感じています。

☆電力の使い方

照明は必要な場所を必要なときにつけるようにしています。祈りの時間や食事の時間は比較的共同体全員が揃うので、あちらこちらで照明を使うということはありません。共同の時間を大切にすることも節電につながる部分があるのだと思います。また、温飯器は季節によって使用時間を調整しています。夏は配食から、食事の間が比較的短い昼食には使用しないなど、小さな節電に励んでいます。

3. ゴミの削減

☆残飯の再利用

朝食作りで出る野菜の端切れ、朝食の果物の皮などで肥料を作っています。肥料は庭で

育てている花や野菜へ。庭でできた野菜は食卓にのぼるので、修道院の中で小さなエコの循環ができています。たまに残飯を埋めた土から野菜の芽が…。サトイモの芽が出たので半年ほど大切に育てた結果、立派な葉の下から親芋しか出てこずに気落ちしたことも良い(?) 思い出です。

肥料には不向きな柑橘類の皮も捨てずにマーマレードジャムに活用。修道院の1年の朝食を支えています。

☆エコバックの活用

レジ袋の有料化が実施されて早2年弱が経ちました。エコバックの活用をはじめてみると案外不自由を感じません。今までいかに無頓着であったかが分かります。修道院では食材や生活用品の調達のために週に2、3回ほど買い出しに出かけるので、エコバックの出番は多いようです。レジ袋のようにペットボトルやプラスチック容器、割り箸の使用などといった他の使い捨て製品への意識も高めていかなければと感じています。

☆ろうそく作り

毎日の祈りに欠かせないろうそく。削った後のロウをろうそく作りに再利用しています。たこ糸を芯にして溶かしたロウを注いで作ります。試行錯誤の結果、型を取るのに最適なのは「カルビーポテトチップスクリスプ」の筒の容器であることが判明。容器の内側がつるつるにコーティングされているため、冷えたあとのろうそくをきれいに取り出すことができます。大きさや色を工夫して祝祭日用を作ったりもしています。

